

## 第2章

# 高松市の自殺の現状

## 第2章

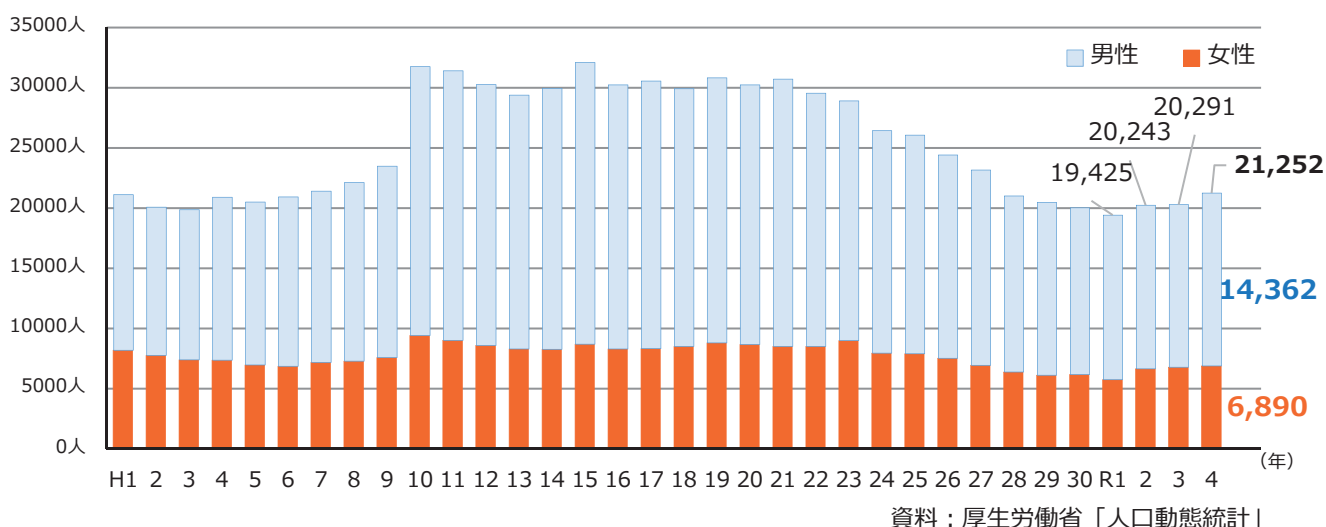
## 高松市の自殺の現状

### 1 全国・香川県の動向

#### (1) 自殺者数の推移

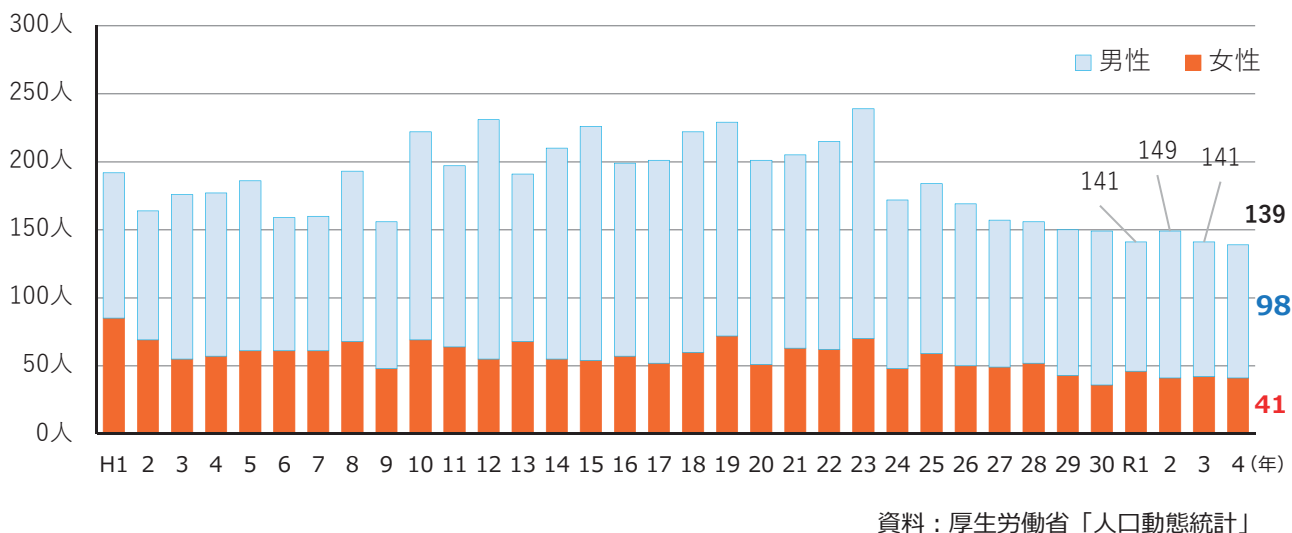
全国における自殺者数は、平成10年に急増し、3万人前後の高い水準で推移していましたが、平成22年以降は3万人を下回り、以降減少傾向にありました。しかし、令和2年に増加に転じ、令和3年は2万291人、令和4年は2万1,252人と増加傾向にあります。

(図2) 全国における自殺者数の推移



香川県における自殺者数は、平成10年以降、200人前後で推移していましたが、平成24年以降は200人を下回っており、令和3年は141人、令和4年は139人となっています。

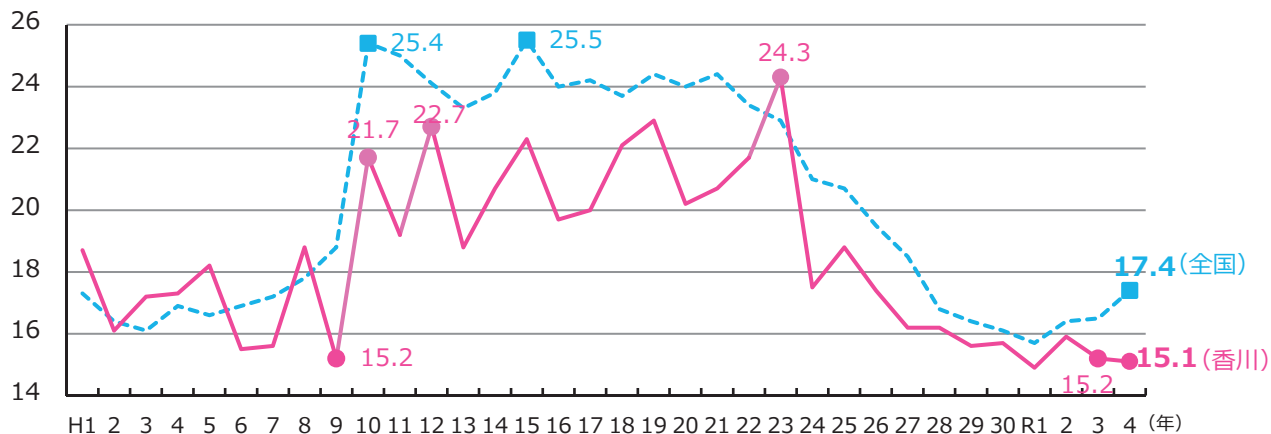
(図3) 香川県における自殺者数の推移



(2) 自殺死亡率の推移

香川県の自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）は、おおむね全国を下回る水準で推移しており、令和3年は15.2、令和4年は15.1となっています。

(図4) 全国・香川県における自殺死亡率の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

(3) 死因順位別に見た年齢階級別自殺者数

香川県の年齢階級別の死因順位をみると、「15～39歳」の各年代において、自殺が死因の第1位となっています。

(表1) 香川県における死因順位別にみた年齢階級別死亡数・死亡率・構成割合（令和4年）

年齢階級	第1位			第2位			第3位		
	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
10～14歳	先天奇形、変形及び染色体異常 その他	1	50.0%						
15～19歳	不慮の事故	3	37.5%	悪性新生物	1	12.5%			
	自殺	3	37.5%	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1	12.5%			
20～24歳	自殺	9	52.9%	不慮の事故	2	11.8%	敗血症	1	5.9%
				心疾患	2	11.8%	新生物	1	5.9%
25～29歳	自殺	3	42.9%	悪性新生物	2	28.6%	神経系の疾患	1	5.9%
							先天奇形、変形及び染色体異常	1	5.9%
30～34歳	自殺	12	52.2%	悪性新生物	4	17.4%	不慮の事故	1	14.3%
							先天奇形、変形及び染色体異常	1	14.3%
35～39歳	自殺	10	32.3%	悪性新生物	7	22.6%	消化器系の疾患	2	6.5%
							心疾患	2	6.5%
40～44歳	悪性新生物	19	27.9%	自殺	11	16.2%	心疾患	9	13.2%
45～49歳	悪性新生物	26	30.6%	自殺	14	16.5%	心疾患	12	14.1%
50～54歳	悪性新生物	45	33.3%	自殺	17	12.6%	心疾患	16	11.9%
55～59歳	悪性新生物	76	38.0%	心疾患	25	12.5%	消化器系の疾患	16	8.0%
60～64歳	悪性新生物	124	42.8%	心疾患	45	15.5%	脳血管疾患	24	8.3%

※ 四捨五入をしているため、割合の合計が100.0%にならない場合があります。

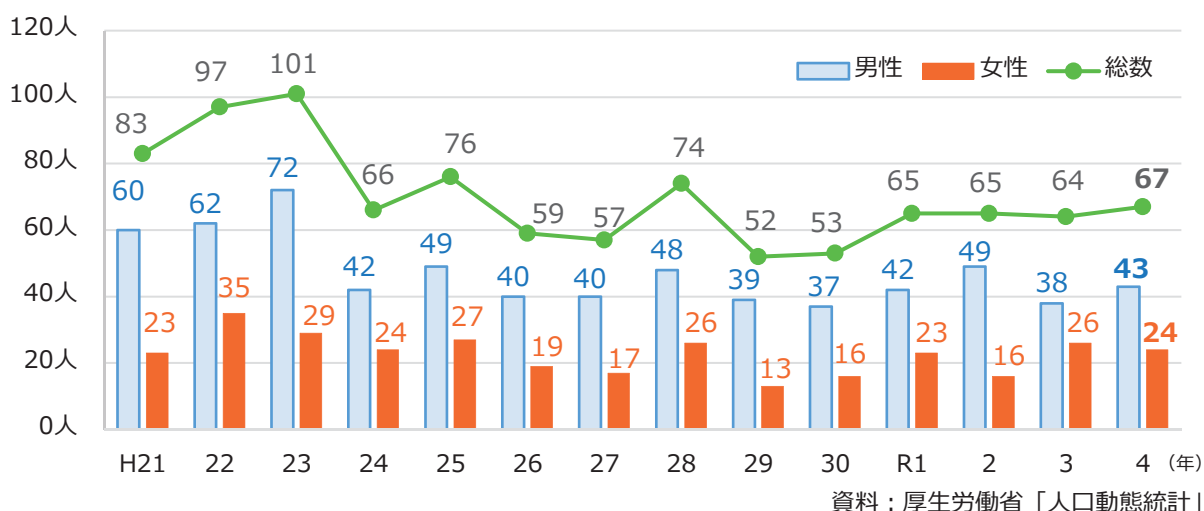
資料：厚生労働省「人口動態統計」

## 2 高松市の自殺の現状

### (1) 自殺者数の推移

自殺者数の総数は、平成 23 年は 100 人を超えていましたが、平成 29 年には 52 人と大幅に減少しました。令和元年以降は、64 人から 65 人で推移しており、令和 4 年は 67 人となっています。性別で見ると、男性の方が、女性より多い状況が続いており、令和 4 年は男性が 43 人、女性が 24 人となっています。

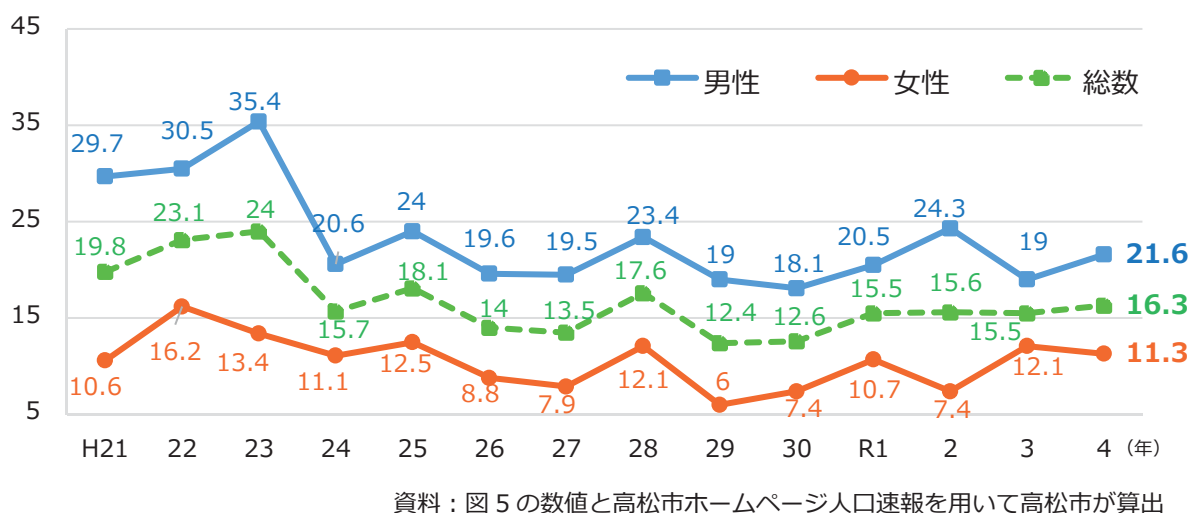
(図 5) 高松市における自殺者数の推移



### (2) 自殺死亡率の推移

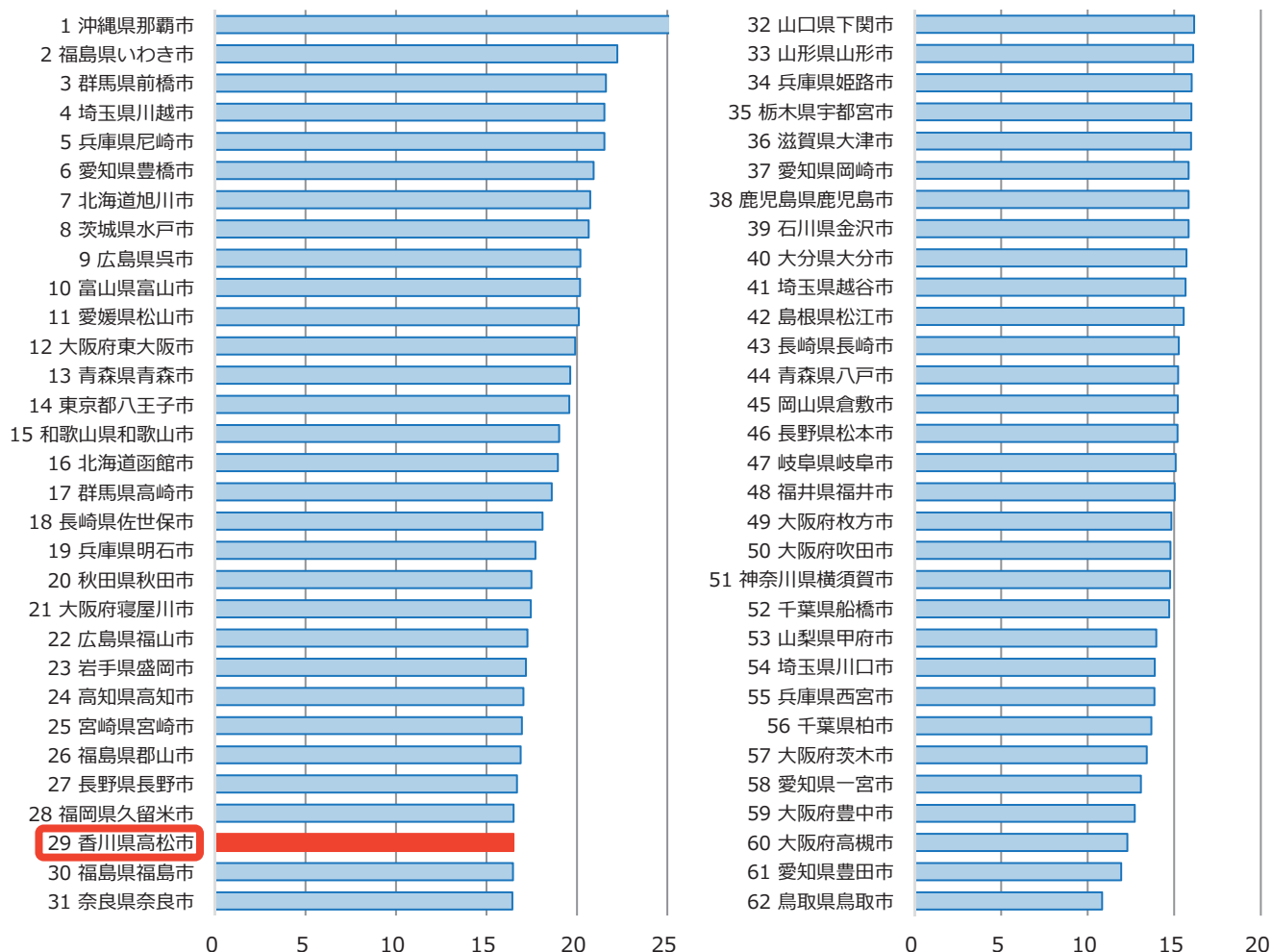
自殺死亡率（人口 10 万人当たりの自殺者数）は、平成 23 年をピークに低下傾向にありましたが、令和元年以降、15.5 から 15.6 で推移しており、令和 4 年は 16.3 となっています。性別で見ると、男性の方が、女性より高い状況が続いており、令和 4 年は男性が 21.6、女性が 11.3 となっています。

(図 6) 高松市における自殺死亡率の推移



中核市別で比較すると、令和4年の自殺死亡率は、62市のうち高い方から数えて、29番目（令和3年は、62市中25番目）となっています。

(図7) 中核市別自殺死亡率の比較 (令和4年)



資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」について

自殺者数に関する統計については、厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の2種類を用途に応じて使い分けています。主な違いは次のとおりです。

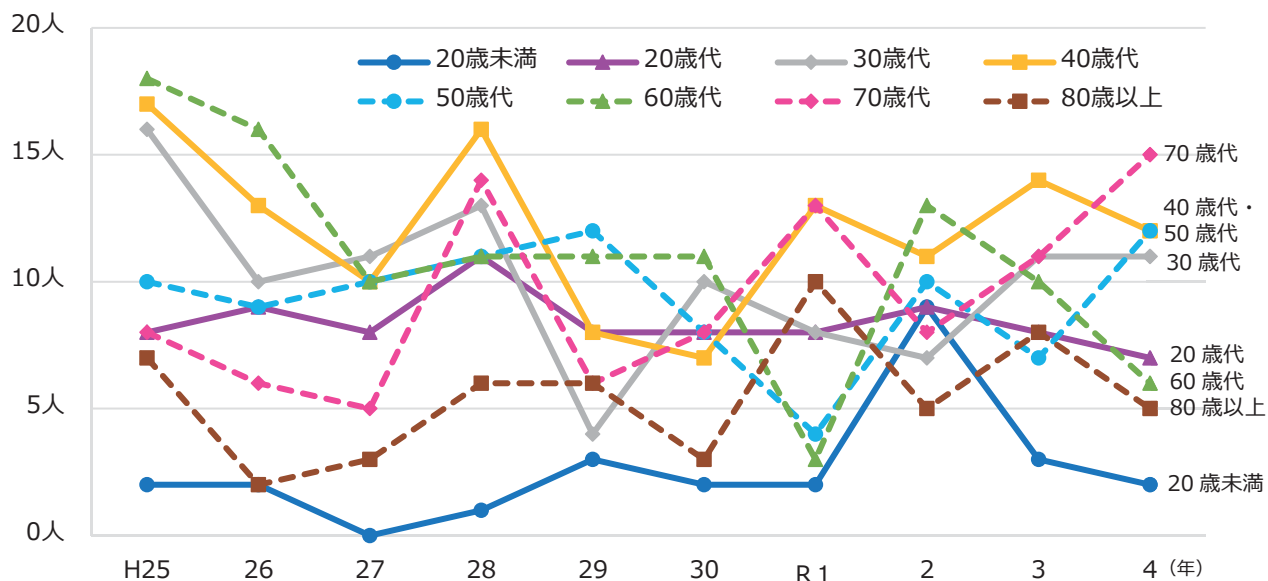
	厚生労働省「人口動態統計」	警察庁「自殺統計」
調査対象	日本における日本人	総人口(日本における外国人も含む)
調査時点	住所地を基に死亡時点で計上	発見地を基に発見時点で計上

また、警察庁「自殺統計」については、警察庁からデータ提供を受けた厚生労働省自殺対策推進室が再集計を行い、都道府県、市区町村別の、より詳細な資料を「地域における自殺の基礎資料」として公開しています。「地域における自殺の基礎資料」は、発見日・発見地で計上したデータの他にも、自殺日・住居地等で計上したデータがあり、本計画においても使用しています。なお、令和4年の自殺統計原票の見直しにより追加、変更された項目があるため、本計画において令和3年以前と令和4年の統計データを分けて掲載している場合があります。

(3) 年齢階級別の自殺者数

年齢階級別の自殺者数は、令和4年は「70歳代」が最も多く、次いで「40歳代」と「50歳代」が多くなっています。また経年的にみると、令和3年以降、「70歳代」は増加傾向にあり、「20歳未満」、「20歳代」、「60歳代」は減少傾向にあります。

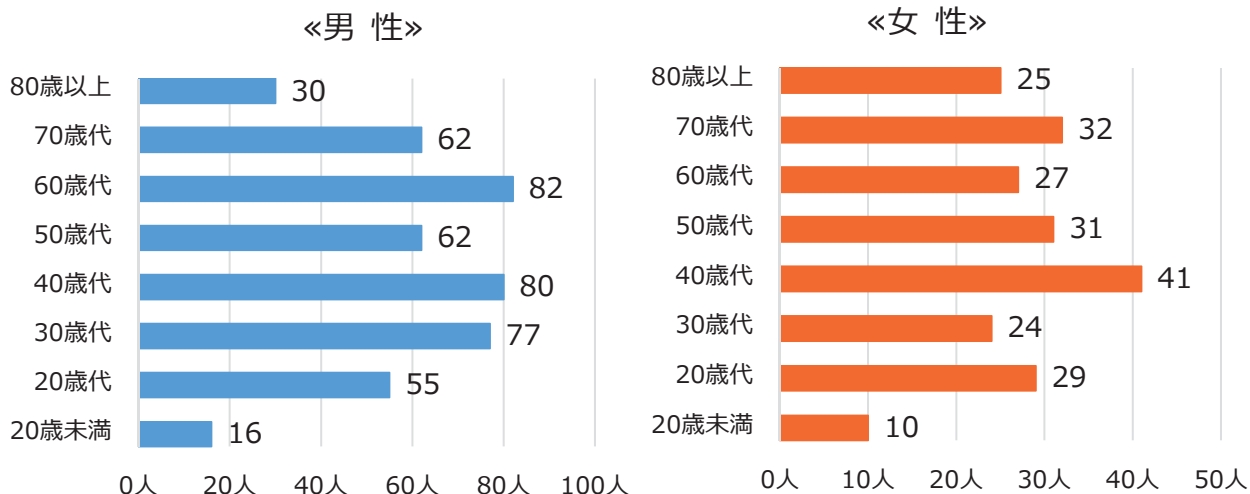
(図8) 高松市における年齢階級別の自殺者数の推移



資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

平成25年から令和4年までの、年齢階級別自殺者数の合計をみると、男性は「60歳代」が最も多く、次いで「40歳代」、「30歳代」の順で多くなっています。女性は「40歳代」が最も多く、次いで「70歳代」、「50歳代」の順で多くなっています。

(図9) 高松市における年齢階級別の自殺者数 (平成25年～令和4年合計)

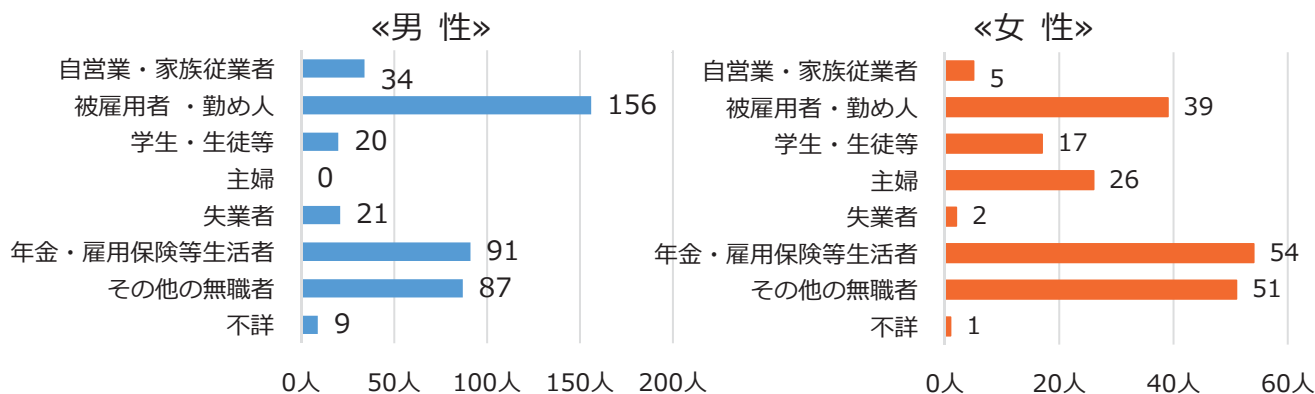


資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

(4) 職業別の自殺者数

職業別の自殺者数は、男性は、「被雇用者・勤め人」が最も多く、次いで「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」の順で多くなっています。女性は、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「被雇用者・勤め人」の順で多くなっています。

(図 10) 高松市における職業別の自殺者数（平成 25 年～令和 3 年合計）



■ 高松市における職業別の自殺者数※（令和 4 年）

	有職者	無職					職業不詳
		学生・生徒等	無職者				
			主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	
男性	14	非公表	0	7	14	8	非公表
女性	11	非公表	非公表	非公表	5	非公表	0

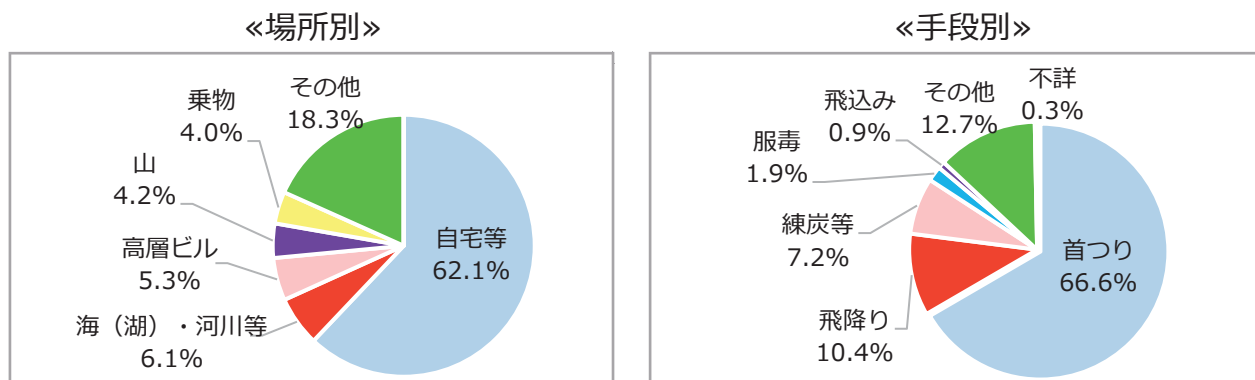
※ 5 人未満の項目は、非公表としています。

資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

(5) 場所別・手段別の自殺者の割合

場所別では、「自宅等」が 62.1%と最も高く、手段別では、「首つり」が 66.6%と最も高くなっています。

(図 11) 高松市における場所別・手段別の自殺者の割合（平成 25 年～令和 4 年合計）

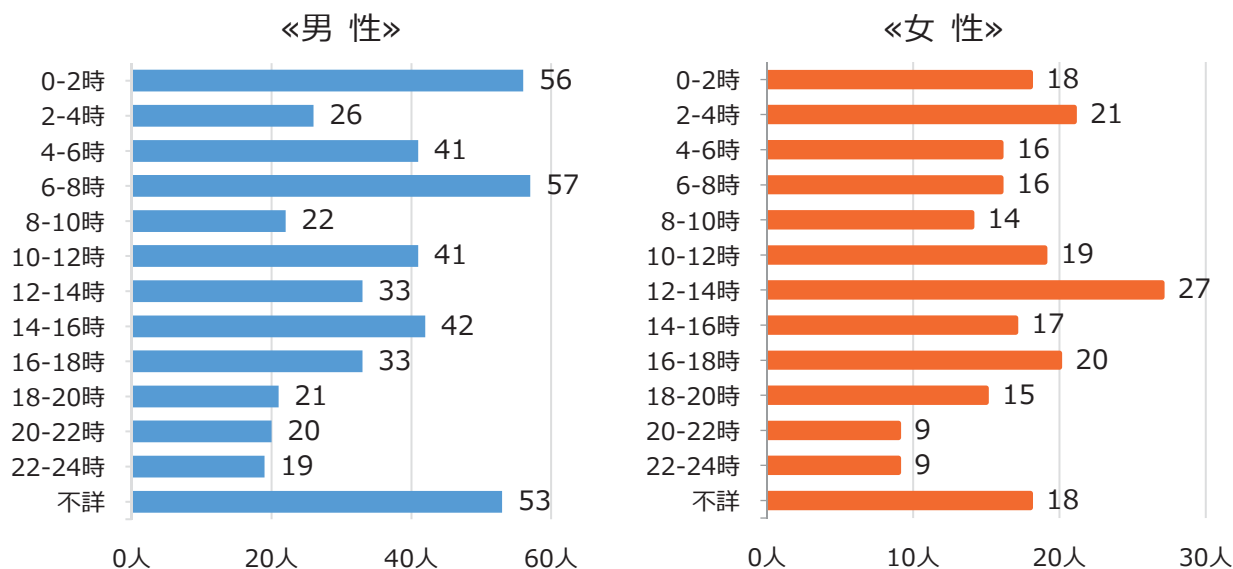


資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

### (6) 時間帯別の自殺者数

時間帯別の自殺者数は、男性は、不詳を除くと「6～8時」が最も多く、次いで「0～2時」が多くなっています。女性は、「12～14時」が最も多く、次いで「2～4時」、「16～18時」の順で多くなっています。

(図 12) 高松市における時間帯別の自殺者数 (平成 25 年～令和 4 年合計)

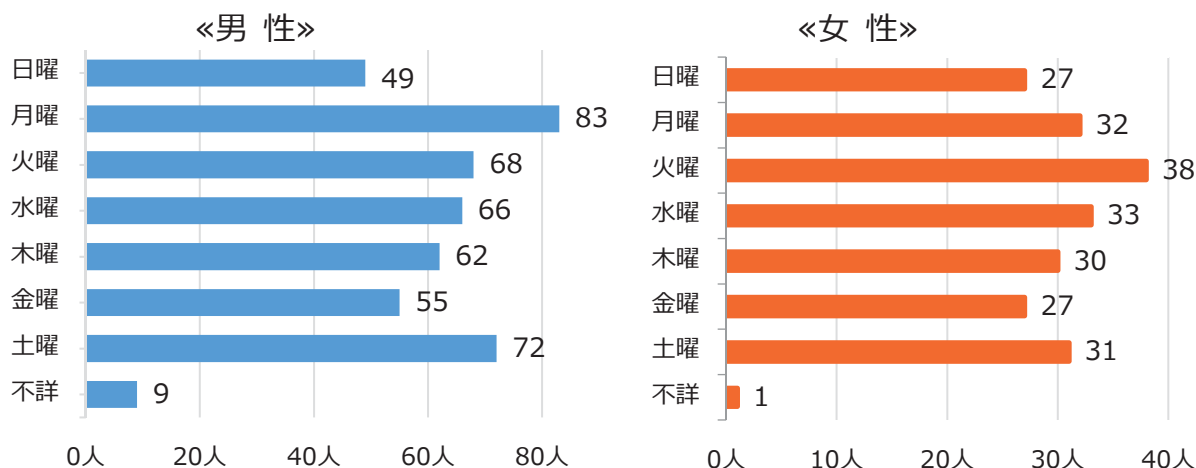


資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

### (7) 曜日別の自殺者数

曜日別の自殺者数は、男性は、「月曜」が最も多く、次いで「土曜日」、「火曜日」の順で多くなっています。女性は「火曜日」が最も多く、次いで「水曜日」、「月曜日」の順で多くなっています。

(図 13) 高松市における曜日別の自殺者数 (平成 25 年～令和 4 年合計)



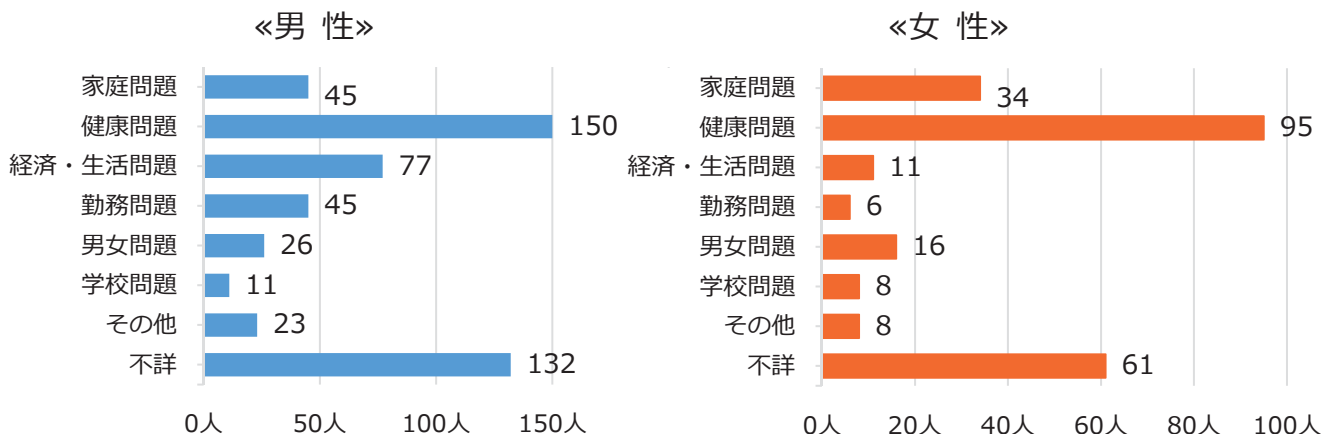
資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】



(8) 原因・動機別の自殺者数

原因・動機別の自殺者数は、不詳を除き、男性、女性とも「健康問題」が最も多く、次いで、男性は「経済・生活問題」、女性は「家庭問題」が多くなっています。

(図 14) 高松市における原因・動機別の自殺者数<sup>※1</sup> (平成 25 年～令和 3 年合計)



■ 高松市における原因・動機別の自殺者数<sup>※2</sup> (令和 4 年)

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳
男性	14	26	14	8	0	非公表	5	非公表
女性	5	14	非公表	非公表	非公表	0	非公表	非公表

※1 複数の項目に該当するものがあるため、各項目の和は合計に一致しません。

※2 5人未満の項目は、非公表としています。

注 令和3年までは、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に限り、自殺者一人につき3つまで計上可能としていましたが、令和4年からは、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者一人につき4つまで計上可能としました。このため、単純に比較することはできません。

資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

《健康問題に分類される原因・動機別自殺者数の割合》

平成 25 年から令和 3 年の健康問題に分類される原因・動機別自殺者数の割合を詳しくみると、男性は「身体の悩み (身体の病気)」が最も高く、次いで「病気の悩み・影響 (うつ病)」が高くなっています。女性は「病気の悩み・影響 (うつ病)」が最も高く、次いで「身体の悩み (身体の病気)」が高くなっています。

(表 2) 高松市における健康問題に分類される原因・動機別自殺者数の割合 (平成 25 年～令和 3 年合計)

	身体の悩み (身体の病気)	病気の悩み・影響					身体障がい の悩み	その他
		うつ病	統合失調症	アルコール 依存症	薬物乱用	その他の 精神疾患		
総数	34.6%	42.3%	6.1%	3.3%	0.8%	6.9%	3.3%	2.8%
男性	39.7%	37.7%	4.6%	2.0%	0.7%	7.3%	4.0%	4.0%
女性	26.3%	49.5%	8.4%	5.3%	1.1%	6.3%	2.1%	1.1%

※ 四捨五入をしているため、割合の合計が 100.0%にならない場合があります。

資料：自殺統計原票データを厚生労働省において特別集計したデータより高松市が作成【自殺日・住居地】

■ 高松市における健康問題に分類される原因・動機別自殺者数の割合（令和4年）

	病気の悩み			病気の悩み・影響						身体障がい の悩み	認知機能 低下の悩み	その他
	悪性新生物	てんかん	その他の 身体疾患	うつ病	統合失調症	アルコール 依存症	薬物乱用	摂食障害	その他の 精神疾患			
総数	7.5%	0.0%	15.0%	45.0%	5.0%	0.0%	2.5%	0.0%	12.5%	7.5%	2.5%	2.5%
男性	11.5%	0.0%	11.5%	38.5%	7.7%	0.0%	3.8%	0.0%	11.5%	7.7%	3.8%	3.8%
女性	0.0%	0.0%	21.4%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%

※ 四捨五入をしているため、割合の合計が 100.0%にならない場合があります。

資料：自殺統計原票データを厚生労働省において特別集計したデータより高松市が作成【自殺日・住居地】

《年齢階級別にみた「病気の悩み・影響（うつ病）」・「身体の悩み（身体の病気）」を原因・動機とした自殺者数の割合》

平成 25 年から令和 3 年の「病気の悩み・影響（うつ病）」、「身体の悩み（身体の病気）」を原因・動機とした自殺者数の割合を、性別及び年齢階級別にみると、「病気の悩み・影響（うつ病）」は、男女とも 20 歳未満で最も高くなっています。また、「身体の悩み（身体の病気）」は、男女とも 60 歳代から高くなり、80 歳以上で最も高くなっています。

（表 3）高松市における年齢階級別にみた「病気の悩み・影響（うつ病）」・「身体の悩み（身体の病気）」を原因・動機とした自殺者数の割合（平成 25 年～令和 3 年合計）

	病気の悩み・影響（うつ病）			身体の悩み（身体の病気）		
	計	男性	女性	計	男性	女性
総数	42.3%	37.7%	49.5%	34.6%	39.7%	26.3%
20歳未満	83.3%	100.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	66.7%	75.0%	62.5%	8.3%	0.0%	12.5%
30歳代	41.9%	47.1%	35.7%	22.6%	23.5%	21.4%
40歳代	56.8%	52.2%	64.3%	21.6%	26.1%	14.3%
50歳代	61.8%	58.8%	64.7%	14.7%	17.6%	11.8%
60歳代	34.0%	28.6%	50.0%	42.6%	45.7%	33.3%
70歳代	30.0%	28.2%	36.4%	46.0%	51.3%	27.3%
80歳以上	17.2%	13.3%	21.4%	72.4%	73.3%	71.4%

資料：自殺統計原票データを厚生労働省において特別集計したデータより高松市が作成【自殺日・住居地】

■ 高松市における年齢階級別にみた「病気の悩み・影響（うつ病）」・「病気の悩み（悪性新生物）・（てんかん）・（その他の身体疾患）」を原因・動機とした自殺者数の割合（令和4年）

	病気の悩み・影響（うつ病）			病気の悩み(悪性新生物)			病気の悩み(てんかん)			病気の悩み(その他の身体疾患)		
	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性
総数	45.0%	38.5%	57.1%	7.5%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%	11.5%	21.4%
20歳未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	25.0%	0.0%
40歳代	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%
50歳代	75.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60歳代	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
70歳代	20.0%	10.0%	40.0%	20.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	20.0%	40.0%
80歳以上	33.3%	20.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

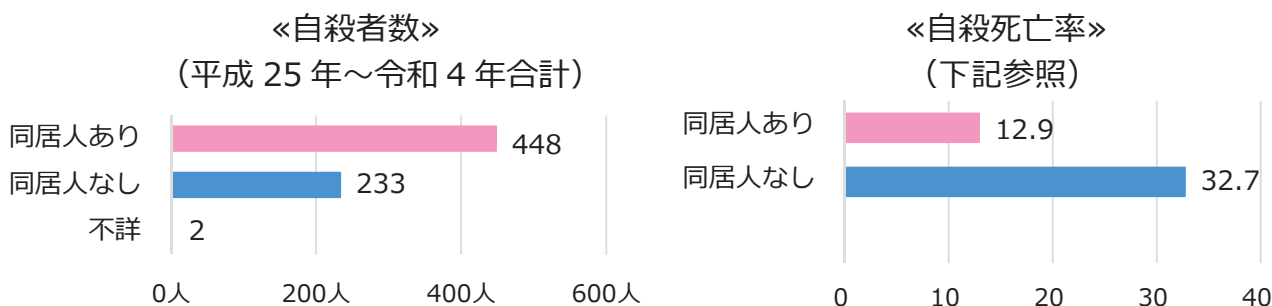
資料：自殺統計原票データを厚生労働省において特別集計したデータより高松市が作成【自殺日・住居地】

(表2)(表3)をみると、うつ病を原因・動機とした自殺者数の割合が高くなっていますが、自殺の背景には過労や生活困窮、育児や介護疲れ等、様々な社会的要因があり、複雑化・複合化した問題が最も深刻化したときに自殺は起きることから、うつ病そのものだけでなく、「うつ病に至るまでの危機経路」に着目する必要があります。

### (9) 同居人の有無別の自殺者数

同居人の有無別自殺者数は、「同居人あり」が「同居人なし」の約 1.9 倍となっています。一方、同居人の有無別自殺死亡率は、「同居人なし」が「同居人あり」の約 2.5 倍となっています。

(図 15) 高松市における同居人の有無別の自殺者数・自殺死亡率



資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

(表 4) (参考)「高松市における同居人の有無別の自殺者率」算定に使用した数値

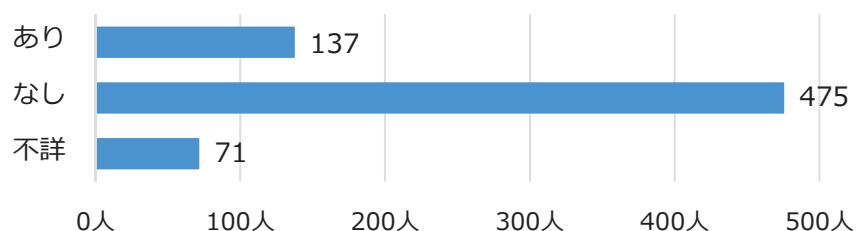
	自殺者数 (平成 25 年～令和 4 年の平均)	人口 (令和 2 年国勢調査より)
同居人あり	44.8 人	346,307 人
同居人なし	23.3 人	71,189 人

資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】、総務省統計局 e-Stat「令和 2 年国勢調査：小地域集計」より高松市が作成

### (10) 自殺未遂歴の有無別の自殺者数

自殺未遂歴の有無別の自殺者数は、「自殺未遂歴あり」が 137 人 (20.1%)、「自殺未遂歴なし」が 475 人 (69.5%)、「不詳」が 71 人 (10.4%) となっており、自殺者の約 2 割に自殺未遂歴があります。

(図 16) 高松市における自殺未遂歴の有無別の自殺者数 (平成 25 年～令和 4 年合計)



資料：厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料」【自殺日・住居地】

3 高松市の自殺の特徴（「地域自殺実態プロファイル 2023」抜粋）

地方公共団体の自殺対策計画の策定支援を行う「いのち支える自殺対策推進センター」において、自殺の実態を分析した「地域自殺実態プロファイル」が示されました。このプロファイルの分析によると、本市における性別や年代等の特性でみた主な自殺の特徴は、次のとおりです。

（表5）高松市の主な自殺者の特徴（平成30年～令和4年合計）

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合 (%)	自殺死亡率 <sup>※1</sup> (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路 <sup>※2</sup>
1位:男性 60歳以上無職同居	48	14.5	33.8	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位:男性 20～39歳有職同居	25	7.5	20.1	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
3位:男性 40～59歳有職同居	25	7.5	11.9	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位:男性 60歳以上無職独居	23	6.9	81.8	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
5位:女性 40～59歳無職同居	18	5.4	17.9	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

※1 人口は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基に、いのち支える自殺対策推進センターにて推計したものです。

※2 ライフリンク「自殺実態白書 2013」を参考に推定したもので、代表的と考えられる経路の一例を示しています。

資料：いのち支える自殺対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」

（警察庁自殺統計原票データをいのち支える自殺対策推進センターにて個別集計【自殺日・住居地】）

「高松の自殺の特徴」の上位3区分の自殺者の特性と、「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に選定された、本市において推奨される重点パッケージ（本市において優先的な課題となり得る施策）として、

「高齢者」 「生活困窮者」 「勤務・経営」 「子ども・若者」

が挙げられています。

#### 4 高松市民の健康づくりに関する調査結果（抜粋）

市民の健康づくりに関する意識やニーズの変化について把握するとともに、「高松市健康都市推進ビジョン」の進捗状況等の確認のため実施している、「高松市民の健康づくりに関する調査」において、本計画の評価指標に関する項目を抜粋し掲載します。

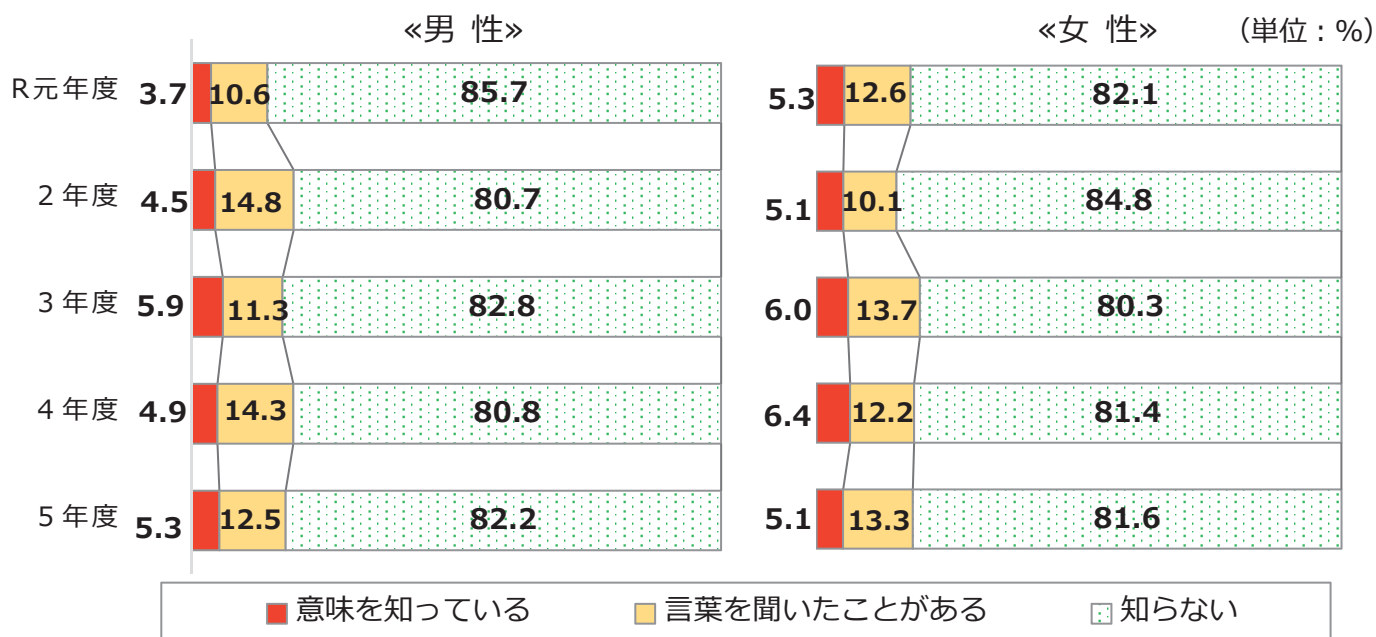
##### ■調査の概要

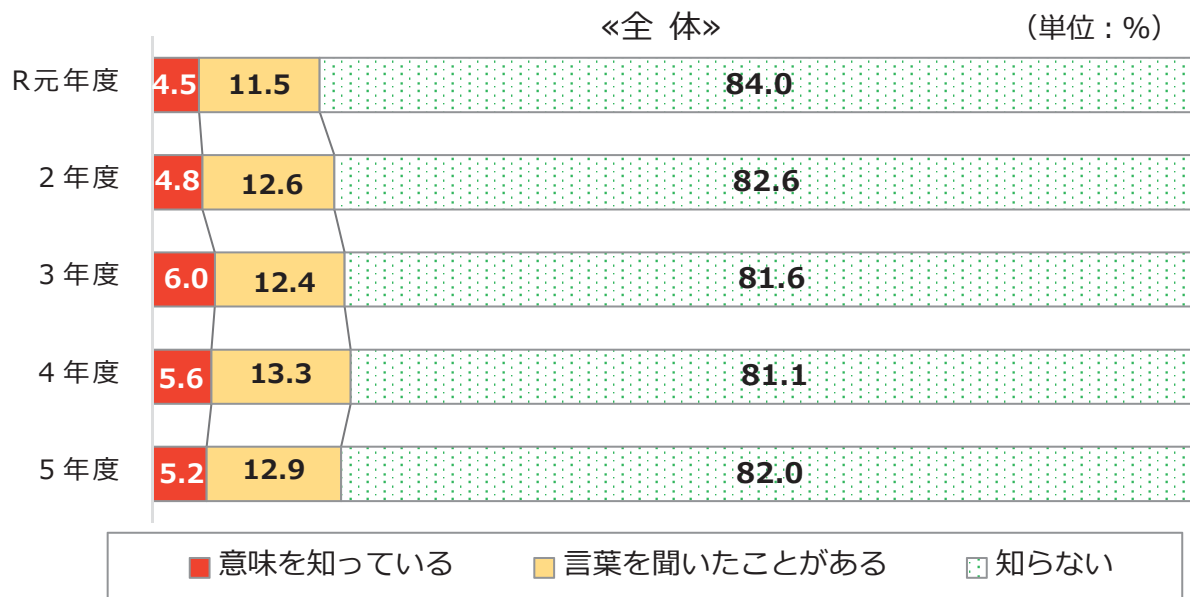
- ・対象者：当該年度において、18歳以上の市民から無作為抽出した男女3,000人
- ・配布及び改修方法：郵送、WEB回答（WEB回答は、令和3年度から実施）

年度	回収数 (A)	回収率 (B/A) (B)	有効回答数 (C)	配布数からみた 有効率 (D/A)
令和元年度	1,355人	45.2%	1,312人	43.7%
2年度	1,383人	46.1%	1,342人	44.7%
3年度	1,250人	41.7%	1,227人	40.9%
4年度	1,191人	39.7%	1,176人	39.2%
5年度	1,075人	35.8%	1,050人	35.0%

##### (1) 「ゲートキーパー」という言葉や意味を、正しく知っていますか

「意味を知っている」、又は「言葉を聞いたことがある」人の割合は、令和元年度以降、増減を繰り返していますが、おおむね男女とも全体の20%弱で推移しています。

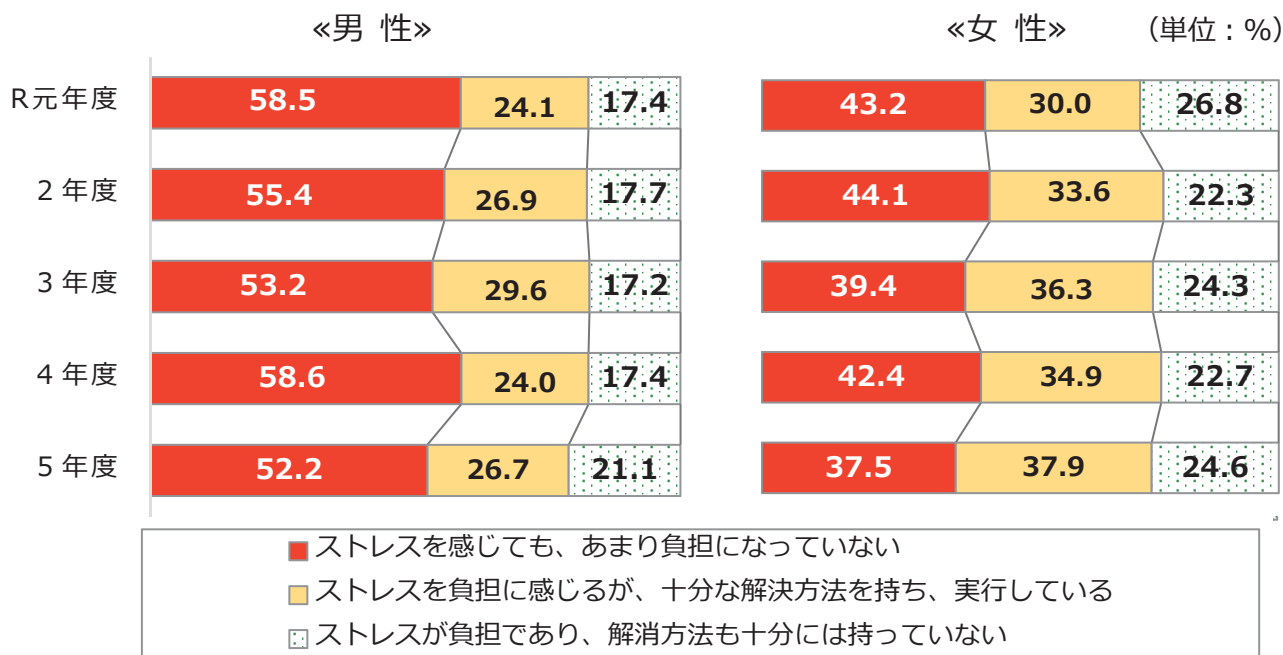


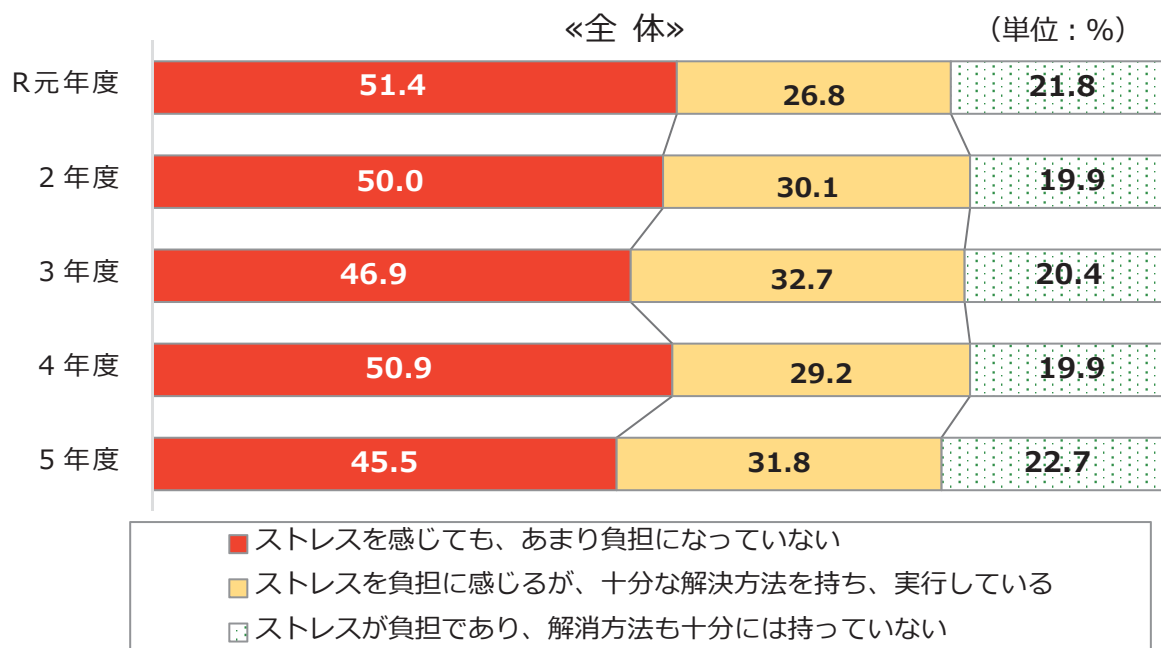


### (2) ストレスを感じた時、どうしていますか

「ストレスを感じても、あまり負担になっていない」、又は「ストレスを負担に感じるが、十分な解決策を持ち、実行している」人の割合は、各年度とも、男性の方が女性より高くなっています。また、男性と比較し、女性は、「ストレスを負担に感じるが、十分な解決方法を持ち、実行している」人の割合が高くなっていますが、「ストレスが負担であり、解消方法も十分に持っていない」人の割合も高くなっています。

また、「ストレスが負担であり、解消方法も十分に持っていない」人の割合を経年的にみると、男性は令和元年度以降、17.2%から17.7%とほぼ横ばいで推移していましたが、令和5年度は21.1%に上昇しました。一方、女性は増減を繰り返しています。





### (3) 過去1か月間のこころの状態について (K6)

- K6 (ケイシックス) は、うつ病・不安障害などの、精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された調査手法です。心理的ストレスを含む、何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されています。
- 質問項目は下記の6項目です。それぞれの項目について、「いつも=4点」、「たいてい=3点」、「ときどき=2点」、「少しだけ=1点」、「全くない=0点」で集計しています。点数の範囲は、0点から24点です。
- 点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると言われています。
- 質問票 (過去1か月間の状況について)

質問項目	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
1. 神経過敏に感じましたか					
2. 絶望的だと感じましたか					
3. そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか					
4. 気分が沈みこんで、何か起こっても、気が晴れないように感じましたか					
5. 何をするのも骨折りだと感じましたか					
6. 自分は価値のない人間だと感じましたか					

## 第2章 高松市の自殺の現状

「10点以上」の人の割合は、全ての年度において、男性の方が女性より低くなっています。経年的にみると、男性は令和2年度に上昇しましたが、その後低下傾向にあります。女性は、令和3年度に上昇しましたが、令和4年度に低下し、その後はほぼ横ばいで推移しています。

